

## 病理診断科後期研修カリキュラム

### 【対象】

卒後3年以降で、病理診断に精通し、死体解剖資格取得、病理専門医を目指す医師。

### 【総合目標】

病理学的能力を涵養し、直接医療に参加する病理専門医になるための初期研修、資質の養成を目指す。

### 【習得目標】

- 1、生検、手術材料の処理、切り出しを的確・適切に行い、作成された顕微鏡標本の病理組織診断をする能力。
- 2、必要に応じてHE染色以外の特殊染色・免疫組織染色を指定・依頼する能力。
- 3、術中迅速診断に的確・適切に対応し、処理できる能力。
- 4、細胞診の基礎的レベルの診断を行う能力。
- 5、PCR法などの遺伝子検査を計画し、実行する能力。
- 6、病理解剖の執刀、材料の切り出し、レポートの作成をする能力。
- 7、臨床各科の検討会に参加し、病理所見のコメントをできる能力。
- 8、CPCを行う能力。
- 9、学会発表、論文発表する能力。

### 【習得方法】

以上の項目について、実技を通して、病理専門医、技師、研修生、臨床医と討論・協力して独力でまとめ上げる。

### 【スケジュール】

<毎日>1、生検材の適当枚数の症例（スライド）、手術材については自分で切り出しし、出来上がった標本を、剖検材については自分で解剖し、切り出した標本を、独力で検討し、午後、病理スタッフと討論し、自分でレポートを作成する。2、目標を立て、必要な病理材料を集め、それを研究的に整理し、特殊染色など追加検討を加え、発表を念頭にレポートをまとめ上げる。

<その他>CPC、臨床検討会、交見会・学会発表

**【評価】**

病理専門医、病理スタッフによる口頭試問

**【免許・資格等】**

死体解剖資格を取得できる。これには研修期間に 20 例以上の病理解剖を経験し、厚生省に申請する。病理認定医受験資格は研修期間では得られないが、その受験資格取得（病理解剖 50 例以上、5000 例以上の生検・手術材の診断実績、50 例以上の術中迅速診断の実績、1000 例以上の細胞診診断実績、原著論文 3 篇以上）を目指す。